

学園だより

Vol.98
2004.10

北見工業大学



写真提供 機械システム工学専攻 1年 堀田真澄君 (2004.8.26 韓国慶州・天馬塚にて)

特別寄稿

「Very good」 2~3

課外活動報告 4~5

大学祭を終えて 8

●サークル紹介⑦ 6~7 ●私の学生時代⑦ 9 ●研究室だより⑧ 10

●お知らせ 11

“Very good.”

～慶尚大学校工科大学との短期交流研修に参加して～

機械システム工学専攻 1年 堀田 真澄

8/23～30日の8日間、北見工大の学生10名と大島先生、栄浪さんの総勢12名で韓国の南、晋州市にある慶尚大学校工科大学との短期交流研修に参加しました。正直、韓国に行き慶尚大の学生とふれあうまでは、この研修がこれほどまでに良いものになるとは思ってもみませんでした。

自分は慶尚大の学生の家ホームステイしました。彼の名はHa tae Won君。彼の家は周りに水田が広がるとてもどかな場所にあり、お父さん、お母さん、Tae Wonの3人で暮らしていて、僕のホームステイ中は結婚してソウルにいるお姉さんが2人の子供を連れて家に帰ってきていました。御両親は農家を営んでいて米、とうもろこし、ピーマン、唐辛子等たくさんの作物を作っていて、朝食に採れたての野菜が並ぶという事もありました。ホームステイ先での生活は日本と変わりなくとても快適なものでした。

まずどのようにコミュニケーションをとったかについて書きたいと思います。日中は北見工大の学生と慶尚大の学生での団体行動がほとんどでした。その間は日本語を話すことが出来ませんが、解散して夜それぞれのホームステイのパートナーとの行動になるともう英語を話すしかありませんでした。ホームステイ先ではTae Wonとお姉さんとは英語、お父さんお母さんとはTae Wonとお姉さんに通訳してもらったでコミュニケーションしました。

自分が覚えた韓国語は挨拶と自己紹介程度で、韓国に行く前はどれくらいコミュニケーションが取れるのか不安な部分もありました。実際、韓国に行ってから、ほとんど英語でのコ



ミュニケーションとなり一生懸命英語を話しました。話していくにつれ、昔覚えた英単語や文法が次々と浮かんできて意外に英語を話せている自分がいました。もちろんそんな綺麗な英語ではないのですが、いろいろ言い方を変えて試してみれば相手には結構通じる、伝える事をあきらめなければ伝わるんだということが実感できました。実際みんなで話すときは韓国語、日本語、英語が入り乱れて会話が飛び交っておりそれでいてみんなそれぞれコミュニケーションが取れているようでした。言葉に関して苦労した部分は多少ありましたが、それが障害となる事はありませんでした。今考えてみればとても不思議な状況でした。

韓国で自分達が行ったことは、晋州市長との接見、韓国の文化、建築、産業についての講義を受け学んだ事、晋州大学の実験設備を見学したこと、韓国の歴史ある建造物、古墳の見学、キムチ工場での体験学習をしたこと、サッカーをして、酒を飲みに行き、カラオケをしたことなどたくさんの事をしました。韓国の学生はみんな携帯電話を持っていて、よく携帯で話をしていて、おしゃれなアイテムのひとつであるように感じました。パソコンに関しても詳しい人が多いといった感じでした。メールアドレスを

教えてくださいというと、E-mailに加えて個人のホームページアドレスまで教えてくれました。お酒もよく飲むし、カラオケもしたりと日本の学生と変わりはなく、みんなおしゃれでした。全体を通して、日本の友達と一緒にいるのと変わらない感覚で共に行動し、違和感は全くありませんでした。

最後の日、晋州出発の朝、ホームステイ先の家族と写真を撮り、たくさんのお土産をもらいました。キムチを少しだけでいいといったのにお母さんがもっとたくさん持って行きなさいと発泡スチロールの箱にパンパンに詰めてくれました。その箱はいろんな意味で重かった。お父さんもお母さんも何度もまたこの家に来るんだよ、韓国に来たら絶対この家に来るんだよと言ってくれ、嬉しくて仕方ありませんでした。もっと韓国語を勉強していればお父さん、お母さんといろいろ話すことが出来たのになと後悔しました。最後にまた会いましょうと一人一人握手をして、韓国語でお礼を言ってお別れをしました。家族みんなですずっと手を振ってくれていました。外国から来た見ず知らずの自分を暖かく迎え入れてくれて、なんでこんなにも優しくしてくれるんだろう、自分はなんて小さいんだろうとひしひしと感じました。その後、大学までTae Wonに車で送ってもらい、道中、ホームステイどうだった？と聞かれ、聞くまでもなくすごい良かったに決まっているよ。お父さん、



お母さんは優しかったし、お姉さんの作ってくれたご飯はおいしかったし... と伝えたい事はたくさんありましたが、自分が答えられたのは“Very Good.”この一言だけでした。自分がこれ以上英語を話せなかったというわけではありません。ただこれ以上は胸がいっぱいになって言葉になりませんでした...

晋州での行動は慶尚大の職員の方がよく準備をしていてくれて、快適に過ごすことが出来ました。こんなにも素晴らしい体験をさせてもらいありがとうございました。慶尚大のみんなありがとうございます。みんな自分の良い友達です。行動を共にした10名のみんなと大島先生、栄浪さんありがとうございました。みなさんと共にした旅はとても楽しく充実していて、楽しくて仕方なかったです。そして自分のわがまを聞いて韓国に行かせてくれた閻先生ありがとうございました。

この研修を通してたくさんの韓国の友達を作ることができ、その友達と一緒にしたさまざまな体験は自分にとって大きな財産であり、生涯忘れることはありません。また韓国を再度訪れ、連絡を取り合い、交友を更に深めていくことは間違いありません。

課外活動報告

第40回全国国立工業大学柔剣道大会開催される

8月22日（日）に本学を会場として、「第40回全国国立工業大学柔剣道大会」が開催されました。本学関係分では化学システム工学科1年田路真美さんが、剣道女子個人戦で見事優勝、電気電子工学科1年谷山祐気君が柔道男子個人戦で第3位、柔道団体戦では柔道部が第3位と、それぞれ好成績をおさめました。なお、総合優勝は室蘭工業大学でした。

来年度は名古屋工業大学で開催される予定です。



北海道地区大学体育大会

標記大会が7月12日から室蘭工業大学を主会場として3日間にわたり行われました。

なお、本学の参加した種目ごとの成績は次のとおりです。

競技種目	成績
硬式野球	2回戦進出
男子バスケットボール	1回戦敗退
サッカー	2回戦進出
バドミントン	1回戦敗退
柔道	予選敗退
剣道	予選敗退
弓道	順位なし
バレーボール	第3位
陸上競技	順位なし



第40回全国国立工業大学柔剣道大会 剣道女子個人戦優勝報告

化学システム工学科 1年 田路 真美

8月22日に北見工大で全国国立工業大学柔剣道大会があり、私は剣道競技の女子個人戦に参加しました。この大会は名の通り全国の国立工業大学が毎年1回各校持ち回りで開催されている大会です。私は1年生なので、今年初めて参加しました。地元開催ということもあり、出場するからには1回戦で終わりたくないという気持ちがあったため、試合前は今までに経験したことがないくらいの極度の緊張をしていました。でも無事1回戦を勝ち上がることができ、少しリラックスできました。それから順調に勝ち上がり、決勝戦ではやはり簡単には勝たせてはもらえません。すごい攻め合いの試合になりましたが、常に自分が挑戦者という気持ちで積極的に向かっていきました。その結果、2本勝ちして初出場で初優勝することができました。人生で初めて、私は金メダルをもらうことができたのですごくうれしかったです。さすがに工業大学の試合だけあり女子の人数が少なかったため、決勝を含む3試合をほぼ続けて試合することになってしまい、その時は体を少し休めたいと思っていました。でも今となっては時間をおかないで試合をしたので変な緊張をせずすんだのが勝因の1つになったと思います。あともう1つの勝因は、同じ剣道部の人たちなどの応援やOBの先輩がいろいろアドバイスして下さいました。本当にありがとうございました。

優勝できたのも、もちろん良かったのですが、試合後に他の大学の方に声をかけてもらって話をしながら交流できたことがすごく良かったです。あと、この大会で少し自分の剣道に自信を持って始めたことも良かったです。というのも、

私は剣道を小2から始めて高2までやっていました。でも事情があって高校の剣道部を辞めてしまって、高3と浪人生の約2年間はまったく剣道にふれていませんでした。大学に入ってから再開したので、再開当初はまったく体が動かずカンも鈍り、体力もまったくない状態で散々でした。今もカンはとりもどしている途中ですが、これからの目標として勝ちにだけこだわるのではなく、私がモットーとしている「楽しく剣道をする」を貫きながら自分が納得できるような剣道ができたらいいなと思っています。次の試合は11月に全道の新人戦があります。バイトや別のサークルもしているので、人より稽古の回数はどうしても少なくなってしまうのですが、内容の濃い稽古をして、自分の納得のいく試合ができたらと思っています。



陸上競技部

陸上競技部は、マネージャー3名を含む、16名の部員がいます。部員数は多くないですが、とてもまとまりがよく、本気で打ち込めます。

今年は私たちの飛躍の年です。現在、年3回の大会をベースに、週5、6回の練習をしていますが、去年まではそんなことはありませんでした。大会には出るものの、練習の集まりもなく、それぞれのペースでそれなりに練習をしていた有り様でした。そんな内情を、今の様に変えるために、主要メンバーによる週1回のミーティングでのメニュー作成、新入部員やサポートをしてくれるマネージャーの勧誘、さまざまな企画を試みたり、そんなふうに行っていると、週5、6回の練習に部員がくるようになり、記録もとても飛躍しました。夏休みは、9月11、12日に開催された大会のために有意義に使って練習をしていました。陸上漬けの日々がとても楽しかったです。

また、8月28、29日に北見工業大学グラウンドにて「24時間たすきリレー」という企画を大学の支援をいただいて実施しました。はじめは大会に向けての練習としての企画でしたが、事態が大きくなり、北見の街を巻き込むイベントになりました。私たちは、そこからリーダーシップやコミュニケーション能力、協調性を学びました。個人競技の私たちだから、ひとりひとりを直視して、認め合い、ときには衝突が必要だと思います。はじめることも大切だけど続けることはもっと大切で、さらに大変だと思いますが、このすばらしいイベントを続けていきたいです。

9月の大会が終わると、陸上競技部は一区切りされますが、練習は続けていきます。サークル掲示板はよく更新しているので、ぜひご覧ください、新入部員はいまでも受け入れます、気軽に来てください。

第1回 24時間たすきリレー



スタート直後の様子



3周目を走る常本学長



大活躍の実行委員の皆さん



8月29日 感動のゴール!!

柔 道 部

我々柔道部は、3年生1人、2年生3人、1年生6人の計10人で練習をしています。あと、たまに院生が練習に来ます。今年は例年以上に新入生が入部し、去年と比べると活気のある練習と内容の濃い練習を行う事ができ、今年の試合の結果がとても楽しみでした。実際に去年よりも良い結果を残す事ができました。では、9月までに行われた試合の結果をお知らせします。

5月の道東三大学体育大会では、釧路教育大学が不参加であったが団体戦2位、個人戦では、本校の1年生が優勝、準優勝ととても良い結果を残す事ができました。7月の地区大会は、い

つもは行われる時期が悪いのと人数が集まらないため参加していなかったが、今年は新入生のおかげで参加する事ができました。試合の結果は残念ながら予選リーグで敗退してしまいました。8月の六工大（全国国立工業大学戦）では、団体戦3位、個人戦3位という好成績を残す事ができました。今は11月に行われる北海学園との定期戦に向けて練習をしています。練習は月・水・金の午後5時から7時ぐらいまで約2時間やっています。興味のある人、黒帯（初段）をとりたい人は、ぜひ武道場に練習の見学に来てください。



大学祭を終えて



完勝の大学祭おめでとう！

第42回北見工業大学大学祭実行委員長

機能材料工学科 3年 小岩 裕 章

皆さんは、大学祭で満足した結果や思い出が出来ましたか？自信を持って返事をして下さい！「楽しかった！」「よかった！」と。今回の大学祭は沢山の人の力が集まって完勝できたものだと思います。少しでも関わった方々、本当にありがとうございます！

実行委員会は、各サークルから応援を頂き大変に力強い尽力となりました。初めは各サークルの代表として参加していた一人ひとりが、大学祭に近づくにつれプロ意識を持ち、語り・喧嘩をし怒られ、各人が確実に成長していったと感じています。

実行委員会は、企画・広報・物品班に分かれています。企画班は、毎日休み時間に集まり、企画を考えました。大学祭当日、彼らの背中が心持ち広くなっていたように思います。短い期間の中、全力で戦ってもらい、本当に考えられた企画で、大学内に沢山の笑顔が増えたと思います。広報班は、準備期間前半戦が勝負！大学祭テーマとポスター・冊子の作成。毎日、メ切と戦いながら、デザイン・広告集め・ポスター張りとは本当に素晴らしい動きでした。学外来場者は、広報班がいなければ訪れてくれません。特に今年は学外来場者が多い年でした。物品班は、物品管理・調達・貸出・制作。当日のステージ後ろのパネルも彼らの考えです。実行委員、本当にありがとう！

また、模擬店に参加して頂いた皆さんから沢山の協力をしていただきました。全部の模擬店から買い食べました。うまかった！文化会サークルの発表、「就職・政治」の研究発表も本当に素晴らしい発表でした！

皆さん一人ひとりがいるからこそ、大学祭が

でき、一人ひとりが大学祭を創っています！誰一人欠けてはならない大切な命です。5年後の自分を考え、臨終只今の思いで、大学生活を、絶対無事故で送っていきましょう。

今回、実行委員長の任と、晴天の大学祭を開催できたこと、皆さんに心から感謝します。ありがとうございました！



私の学生時代⑤⑦

土木開発工学科 助手 中尾 隆 志

私がこの北見工業大学を受験したのが昭和47年のことですから、かれこれ30年近くも前の話になります。当時の国立大学の受験制度は今と違い、「一期校」と「二期校」というスタイルでした。当事、下火になりつつあったとはいえ大学紛争もあり、もしかすると入学試験が実施されないかもしれないという話もあった中で行われた試験にも何とか無事に合格することができ、4月から新しく大学生活が始まりました。初めて親元を離れることもあり多少不安はありましたが、それも無駄な危惧でした。下宿生活では夕食が終わると早々に何故か四畳半一間の狭い私の部屋に毎日のように下宿人全員（といっても6人だけの小さなところでしたが…）が集まり、いろんな話題について夜遅くまで時には夜明けまで議論し、翌日下宿の管理人に注意を受けることもたびたびでした。

私の所属していた『開発工学科』は入学当時、設置3年目ということが関係していたのかどうかはわかりませんが学科の先輩との交流も盛んでした。今では死語となりつつある「新歓コンパ」や「追コン」はもとより夏には科内学年対抗ソフトボール大会を行い十分すぎるくらいに親交を深めました。特にコンパの後の二次会には先輩が後輩を引き連れて夜の街に繰り出し、定期試験対策情報から恋愛問題までいろいろな良き(?)情報を頂きました。

大学生活にも慣れてきた2年後期ごろからは専門科目のウェイトが多くなり、取り分け演習・実習科目のレポート整理に明け暮れる毎日でした。この整理には専ら図書館を利用させてもらいましたが、今と違って夜間開館サー

ビスなどといったものはなく、残った分は下宿で作成するといった日々でした。下宿には学科こそ違ったのですが同じ土木系の先輩が居り、わからない箇所は私が理解できるまで懇切丁寧に教えてくれる良き先輩でした。この先輩とは残念ながら卒業後は会う機会が少なくなってしまいましたが、今でも時々電話でいろんな情報を頂いております。

先に書いたように私が本校を卒業して30年近くを迎えようとしています。当時のクラスメイトはそれぞれの地で第一線の土木系技術者として忙しく活躍しております。そんな中、卒業後何年かしてクラス会を開こうという話になり、それ以降今でも数年に一度の割合で開いています。写真は北見で開催した時のものです（中段、右から2番目が筆者）。仕事の関係上、全員集まることはないのですが、話題も学生当時の定期試験対策をメインとした勉学の話題から今では仕事に関する情報交換の場となっています。

皆さんも学生時代に“良き友”をたくさん作り、勉学も遊びも多いにエンジョイして下さい。なにしろ“良き友”は“人生の良き糧”となるのですから。



機能材料工学科 機能材料分析研究室

科学技術の進歩、産業の発展に伴い材料や環境における微量成分を高感度、高精度に定量するニーズが増大してきております。材料や環境試料を理解するためには、その元素組成や、分子の種類、それらの集合状態や存在量などの情報を得ることは、大変基本的でかつ重要なことです。当研究室では、物質中の各成分を化学的、機器的手法で質的、量的に測る（量る）ための新しい「濃縮分離法」「バイオセンサーの開発」および「機器的手法による超微量成分の定量法」の開発を目指して基礎から応用まで広い分析化学研究を行っています。

(1) 希土類元素の抽出分離法

分離技術は化学工業など種々の製造工程において、得られた素材をピュアにしたり、不純物や有害物を除去する技術です。また分離技術は環境問題とも極めて関わりが深いと言えます。当研究室では、機能性材料と関わりが深い希土類元素の相互抽出分離について研究しておりま

す。最近、環境に有害な有機溶媒を用いない、環境汚染の少ないクリーンな抽出法の開発が望まれております。

(2) バイオセンサーの開発

生体の機能は多種多様です。これらを利用したり、模倣する分析技術の開発に取り組んでいます。細胞膜では物質を正確に認識したり、その情報を増幅したり変換する機能を持っており、その機能を再現するための人工細胞膜の構築とセンサーへの応用に取り組んでいます。

(3) 超微量成分の定量法

機能性材料では超微量成分の有無により材料特性が著しく変化することは希ではありません。材料中微量成分分析では一般に試料を酸などで溶液にする必要がありますが、当研究室では固体のまま直接分析する方法を研究しています。迅速簡便・高感度な分析が可能でオンサイト分析として注目されています。



原子吸光による超微量金属の定量

お知らせ

「オフィスアワー」の実施について

本学では、学生の個別学習指導及び学生生活全般に関する相談や支援を目的に、各教員が時間帯を設定し学生の相談を受け付ける「オフィスアワー」を実施することとしました。

各教員の設定時間帯については、各学科の掲示板及びホームページに掲示してありますので、是非この制度を活用し有意義な学生生活を送ってください。

家庭ごみの有料化について

北見市では平成16年11月1日から、家庭ごみ（燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ）の処理が有料になります。

◆ 有料化に伴うごみの出し方 ◆

燃やすごみ 燃やさないごみ	指定ごみ袋	→	指定ごみ袋でごみステーションへ
燃やさないごみ	燃やさないごみ用ごみ処理券	→	ごみ処理券を貼りごみステーションへ
粗大ごみ	粗大ごみ用処理券	→	粗大ごみは事前申込による戸別収集

指定ごみ袋の金額

袋の種類	金額(1枚当たり)	10枚セット価格
15ℓ袋	30円	300円
30ℓ袋	60円	600円
45ℓ袋	90円	900円



< * 指定ごみ袋・処理券は本学生協でも販売いたします。 >

詳細については、

<http://www2.ohotoku26.or.jp/kitami/kitgomi/katei/yuryou/yuryou.htm>

をご覧ください！



平成16年10月発行

北見工業大学「学園だより」編集委員

青 山 政 和(化学システム工学科)

伊 藤 英 信(機能材料工学科)

佐 渡 公 明(土木開発工学科)

下記URLにて「学園だより」のバックナンバー(Vol.89～)がご覧になれます。
http://www.kitami-it.ac.jp/students_info/life/dayori.html